

フリーペーパー ペッコ
PECCO

3階児童コーナー



VOL.69 2024.11

発行 岩手県立図書館



図書館探検記 その34 そめちゃんがゆく!



そうごたいしゃく 相互貸借

探している本が岩手県立図書館にない場合、他の図書館から取り寄せることができるサービス、「相互貸借」をご存知ですか？利用者登録している方ならどなたでもご利用いただけるサービスです。そこで今回は、そめちゃんがサービス利用の流れをカンタンに解説！内容を知ること、図書館活用の幅が広がるかもしれません♪



どうして相互貸借という仕組みがあるの？

図書館の広さや資料費は各図書館によってさまざまです。限られたスペースで運営していくためには、各館で収集方針や選定基準に違いが生まれます。その違いが、蔵書の個性や強みに変わります。「相互貸借」とは、利用者の多様な「読みたい」「知りたい」に応えるため、お互いの蔵書の個性を活かし、補い合うことで成り立っているのです。



そもそも、県立図書館と市町村立図書館では、担っている役割が違うと聞いたよ。そうすると買う本の種類も違うわけだ。



お客様のニーズに応えるため、岩手県内全体でひとつの図書館を作っているイメージだね♪

ちなみに

岩手県立図書館の収集方針は？

- 1 調査・研究・教養に役立つ資料**
県内市町村立図書館や社会教育施設、大学・研究機関等と連携を図りながら収集。
- 2 岩手県及び岩手に関する資料**
特に、石川啄木・宮沢賢治に関する資料は重点的に収集。
- 3 課題解決に役立つ資料**
県民や地域が抱える諸課題について、その解決策を見出すことのできる資料を幅広く収集。
- 4 市町村立図書館を支援できる資料**
「図書館を支援する図書館」として市町村立図書館を支援することのできる資料を幅広く収集。



市町村図書館から希望があった資料は、優先的に購入してるんだって。

そうなの!?
たとえばどんな?

すごく専門性が高い資料や高額な資料とかだよ。その代わりに、人気小説の購入は少なめなの。

購入文学作品の基準
受賞作品や、歴史的に評価の定まった作品

人気小説は市町村図書館の方が充実してるでしょ?これが蔵書の個性だね?



いざ借りたい! どうするの?

1 お申し込み

下記いずれかの方法でお申し込みください

- カウンター窓口
- メール
- 電話

初めての方は窓口での申し込みがおススメ☆



メールの場合は「他館資料借受申込書」(HPよりダウンロード)をご記入の上、代表メールアドレスあてにお送りください。

2 所蔵館探し

お申し込みを受け、スタッフが所蔵している図書館を探します。

「出版年」や「改訂版」などの情報も詳しく教えてね。



最初に

まずは、県内の図書館から探していくんだね。

次に

北日本図書館連盟加入館
(北海道・東北6県)

連盟加入館にあった場合

最後に

そのほかの図書館

県外の図書館にあった場合

送料全額当館負担

借りる側の図書館が往復の送料を負担。



頼めは無料で手元に届くけど、実際はお金がかかってるんだね。

そりゃそうだ。タダなわけない!



3 取り寄せ

岩手県内の図書館

県内の図書館にあった場合

週に1回の搬送便を利用

「搬送便」とは、県内図書館間での相互貸借をスムーズに行うための搬送システム。市町村立図書館等と県立図書館との間で週に一度、資料搬送の定期便を設けている。



貸出期間は相手館の規程による。

相手館で貸出中であれば、すぐには借りられない。

本が届いたらご希望の方法でご連絡します。

利用にあたっての注意点!

基本 ▶ 相手館の利用者がまず優先!

発行後1年以上の本は借りられない場合が多い。

館外貸出できない資料は当図書館内でご利用を。

返却はブックポストに入れず必ずカウンターへ!

貸出期間の延長はできません。

続きものを複数申し込んだ場合、順番通りにならないことも。計画的にお申し込みを。

「やっぱりいらな〜い!」とかさ、言わないでね。だってほら、悲しいじゃない?



不便に感じることがあると思いませんか?...

相互貸借は相手の図書館にもご協力いただいで実施しているもので、図書館同士の信頼関係によって成立しているサービスとも言えます。ルールやマナーを守り、申込後のキャンセルや、汚破損、延滞、亡失などのないよう、特に取り扱いにはご注意願います。



モンスター・ホテルでめしあがれ

柏葉幸子 作／高島純 絵／小峰書店

町はずれにある、モンスター・ホテル。まちに遊びに来たモンスターたちが泊まっているホテルですが、今日はなんだかホテルの中が大騒ぎ！コックの幽霊、シュウさんがホテルに持ってきた大きな包みか原因みたいだけど、いったい中身はなんだろう？モンスター・ホテルシリーズ最新作。著者は岩手県出身です。



城下町の民衆史 盛岡・水沢・遠野

松本四郎 著／岩田書院

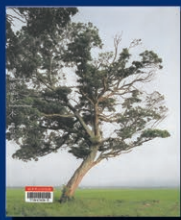
近世の城下町は、日本の近代都市の前身であるといわれています。特産物を販売する市の設置や、町の人々への祭礼信仰や芸能の広まりによって賑わいの場が広がり、城下町は発展していきました。本書は盛岡、水沢、遠野などを取り上げ、都市としての城下町の成立・発展について、民衆の立場からひもといています。



弥彦と啄木 日露戦後の日本と二人の青年

内藤一成 著／芙蓉書房出版

上流階級の出身で東京帝国大学学生という恵まれた環境で育ち、日本初のオリンピック選手「三島弥彦」。高等教育機関への進学の間を閉ざされ生活に追われる「石川啄木」。同じ明治19年2月生まれでも、対極的な二人。満22歳の日記1年分から興味深い内容や特筆事項を抽出。そこに解説を加えた日露戦争後の時代の雰囲気や空気が伝わってくる一冊です。



津波の木

畠山直哉 写真・文／小学館

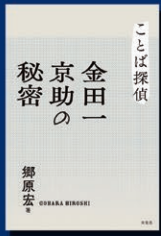
写真家の畠山直哉氏は、都市にまつわる写真で世界的に知られています。畠山氏は、2011年3月に東日本大震災の津波で故郷陸前高田の生家を失い、それ以来、震災から復興の時間の推移を写真に収めてきました。福島、宮城、岩手の津波の爪痕をとどめる樹木や風景を撮影した写真集です。



猿の戴冠式

小砂川チト 著／講談社

ある事件をきっかけに引きこもっていた競歩選手のしふみは、言葉を機械学習させられた類人猿ボノボのシネノと出会う。シネノと交流を深め、心を通わせていくうちに、しふみは自分を取り戻していく。著者は盛岡市出身。今作は、デビュー作「家庭用安心坑夫」に続き芥川賞の候補となった注目作です。



ことば探偵金田一京助の秘密

郷原宏 著／双葉社

本書はアイヌ語研究の基礎を築き、多くの国語辞典を監修し、私たちが今使っている「現代かなづかい」を唱えた言語学者・金田一京助の幼少期から晩年までの全生涯をじっくり描いた一冊です。また、親友である石川啄木との濃密な交流についても述べており、興味を引く知的探求書となっています。2022年から2023年に『小説推理』に連載していたものを単行本化しました。